

▶健康カレンダー 10月

2012 **10** SEP.

麻酔の日

皆さんは、10月13日が「麻酔の日」であるということをご存じでしょうか？



今をさかのぼること約200年前、華岡青洲(左図)が**世界で初めて全身麻酔下に乳がん摘出手術を成功させた日**です。1804年10月13日のことでした。青洲は、朝鮮アサガオを主とする六種類の薬草から

麻酔薬「通仙散」を作り上げ、動物実験を重ねました。「麻酔」という概念すらなく、「痛み」に耐えることが、美德とされた時代に、青洲は自分の母親や妻に協力してもらって、この偉業を成功させたのです。(有吉佐和子著「華岡青洲の妻」)。

これは、広く世界で知られているハーバード大学におけるモートン医師の**エーテル麻酔の公開実験の約40年も前のこと**でした。そこで、日本麻酔科学会はこの偉業をたたえて10月13日を「麻酔の日」としたのです。

一口メモその1 朝鮮アサガオは、曼荼羅華(まんだらげ)とも言い、3世紀頃、中国の名医・華佗(かた)がこれを用いて手術をしたという記録があるそうです。その種子、根、茎、葉には、麻薬の成分が含まれており、現在でも、麻酔の前投薬としてその成分の一部が使用されています。

また、朝鮮アサガオは、日本麻酔科学会のロゴにもなっています。(右図)



一口メモその2 日本から始まった麻酔でしたが、第2次世界大戦の頃には、日本の医学はアメリカに大きな遅れを取っていました。戦後1950(昭和25)年、アメリカは日本の医学を啓蒙するべく医学の使節団を派遣しました。この使節団の中に、ニューヨークのサクラッド博士という麻酔科医がいました。日本の外科医達は、このサクラッド博士の講義を聞き驚愕しました。その頃、日本では不可能とされていた心臓や肺の手術が、アメリカでは既に安全に行なわれていたからです。日本の外科医達は、アメリカの医療水準に、追い付くために、日本でも「麻酔科」を作り、「麻酔科医」を養成しなければならないと、痛感しました。

こうして、1954(昭和29)年に、「日本麻酔科学会(当時は日本麻酔学会)」が設立され、その10年後の1963(昭和38)年に、麻酔科の専門医が、44名誕生しました。これが日本で最初の「専門医制度」です。当院の麻酔科医2名も専門医および指導医を取得しています。

手術が決まった方、麻酔のことでご質問や不安な点がありましたら、遠慮なく麻酔科医にお尋ねください。(麻酔科医長 大井 由美子)

医療福祉相談室 だより



医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。

子どもの病気(難病・発達障害・こころの病気)に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。



「かくれんぼする文字みい〜つけた」

小林真澄 / 作 幻冬舎

朝晩少し肌寒くなってきましたね。病院の中でも、お家でも、ゆっくり親子で本を眺めてみませんか? ページをめくると、ほとけさまに包まれているようなあたたかい日本の風景や季節の絵に癒されます。そして、じっくり、ひらがな達がかくれんぼしています。まったりとした時間を楽しめる本です。

(医療福祉相談室 高村 純子)